

白謡会・秋の会番組

平成二十九年十一月十九日(日)午前九時二十分始
於・横浜能楽堂舞台(〇四五―二六三―三〇五〇)

連吟

松虫

シテ 一坂 洋三 ワキ 青山 圭佑

地 三武 孝 他男性会員

野宮

シテ 小島 洋子 ワキ 鈴木 幸子

地 菅原 秀子 他女性会員

素謡

花月

シテ 三村 勉 ワキ 森 庸一

地頭 関口 潔、副地頭 橋本鏡子、山口健次

仕舞

高砂

一坂 洋三

屋島

佐藤 文孝

斑 女クセ

河野 健三

松風

浅枝 秀隆

巻絹

斉藤千賀子

素謡

六浦

シテ 関口 節子 ワキ 小林 宏三

地頭 北島大靖、副地頭 青山圭佑、一坂洋三

ツレ 長谷川次八

花筐

シテ 山口健次 ワキ 越後貫 隆

ワキツレ 鈴木 紀子

地頭 渡邊長壽、副地頭 伊東重章、山形隆康

(十一時頃)

仕舞

田村キリ 金山 武志

采女クセ 初田 敏美

梅キリ 松嶋 聡子

鐵輪 小島 洋子

連吟

江口 シテ 齊藤 三紀 ツレ 永野由紀子 ワキ 糸井多倍子

地 三野仁子、龍田啓子、高井倫子、小笠原久珠子、鈴木幸子、岩井さおり、鈴木幸子

通小町 ツレ 佐川 武子 ワキ 小原九州男

地 河野健三、一坂洋三、天野忠雄、小林宏三、菊田 博、浅枝秀隆、金山武志

素謡

ツレ 姥澤 賢

蟬丸無本 シテ 尾崎 純子 ワキ 三武 孝

(十二時三十分)

地頭 平戸仁英、副地頭 深田晴美、関口潔

連吟

定家 シテ 齊藤千賀子 ワキ 西尾 まつ枝

地 松嶋聡子、石井佑卯子、近藤たね子、二宮惠磨。鈴木紀子、中尾操、竹川綾子

仕舞

邯鄲ヲト 永野由紀子

俊成忠度 加藤千恵子

砧前 中尾 操

班 女舞ヲト 岩井さおり

融 龍田 啓子

素謡

楊貴妃

シテ 石井 静江 ワキ 黒澤 裕美

地頭 深田晴美、副地頭 菅原秀子、松嶋聡子、他女性

清経

舞囃子

石井 佑卯子

大鼓 三木極威子 小鼓 龍田啓子 笛 中山真秀
地謡 平戸仁英、深田晴美、青山圭佑、北島大靖、姥澤 賢

素謡

ツレ 初田 敏美

求塚

シテ 神崎 克子 ワキ 山形 隆康

地頭 倉川重隆、副地頭 平戸仁英、渡邊長壽

(十五時十五分)

連吟

経正

シテ 中山 真秀 ワキ 山森 和夫

地 越後貫隆、小原九州男、菊田博、西澤滋幸、森庸一、長谷川次八、佐藤文孝

独吟

井筒 加藤千恵子

独舞

芭蕉 北島 大靖

仕舞

竹生島 姥澤 賢

源氏供養 三野 仁子

遊行柳キリ 森川 洋子

善知鳥 糸井多倍子

砧後 堤 美代子

舞 躰 子

井 筒

橋 本 鏡 子

(十六時十五分)

大鼓 三木極威子 小鼓 相良邦子 笛 大久保直樹
地謡 黒澤裕美、深田晴美、松嶋聡子、斉藤千賀子、三野仁子

素 謡

俊 寛

成恒 伊東 重章
康頼 天野 忠雄
シテ 西澤 滋幸 ワキ 渡邊 長壽

地頭 青山圭佑、副地頭 三武者、河野健三

(終演午後五時五十分)

附 祝 言

注① 素謡の地謡には、会員及び会員のご友人の参加は自由です。

注② 地謡の一部省略箇所、連吟の範囲、素謡参加者及び仕舞地謡の担当氏名は別途お知らせ致します。

注③ 昼食は、能楽堂二階の食堂で用意致します。また、楽屋での給茶は省略しますので、ペットボトルなど飲み物をご持参下さい。 会終了後、野毛の「一の蔵」にて懇親会を催します。

備 考

○仕舞地謡担当(正面席に向かって左からの着座順、右端が袴後見)

第一群(高砂ほか) 森川洋子、舎川重隆、平戸仁英、関口潔、小林宏三(袴)

第二群(田村ほか) 齊藤千賀子、青山圭佑、平戸仁英、渡邊長壽、浅枝秀隆(袴)

第三群(邯鄲ほか) 関口潔、青山圭佑、平戸仁英、北島大靖、姥澤賢(袴)・・・無本

第四群(竹生島ほか) 尾崎純子、黒澤裕美、平戸仁英、一坂洋三、河野健三(袴)

○素謡省略箇所

花月 六丁表・クセ省く

六浦 省略箇所なし

花筐 ①七丁表の上歌 ②十一丁裏のイロエから十四丁表のワキ「宣旨にてあるぞ・・・へ跳ぶ

蟬丸 ①ワキの道行から物着まで省く ②クセ省く(十二丁表地謡より十三丁表のワキへ跳ぶ)

楊貴妃 六丁裏の下歌と七丁表上歌を省き。七丁裏のロンギへ跳ぶ

求塚 ①二丁表の上歌を省く(下歌より、ワキ「いかにこれなる・・・へ跳ぶ」 ②三丁裏のロンギを省き、

六丁裏のワキ「不思議やな・・・へ跳ぶ 袴着用

俊寛 四丁表上歌を省き、五丁表の後ワキ「早舟の・・・へ跳ぶ

○連吟の範囲

松虫 中入後の待謡より、クセ留まで

野宮 後シテより最後まで

江口 七丁表のワキ「不思議やな・・・からクセ留まで

通小町 七丁表の名宣より三丁表の地留

定家 八丁裏のクセ・アゲハ(シテ)より十一丁表の地謡留(・・・御僧)まで

経正 四丁表のワキ「不思議や・・・より。七丁表の地留(クセの前)まで

(10・21稿)